

# 大学生の片づけ行動に及ぼす両親の影響

## ——片づけ要求と片づけ態度からの検討——

目白大学大学院心理学研究科 博士後期課程 元井 沙織  
目白大学人間学部 小野寺敦子

### 【要 約】

本研究では、大学生の「片づけ行動」に、子どもの頃の「両親の片づけ要求」および「両親の片づけ態度」がどのように影響を及ぼしているのかを検討することを目的とした。質問紙による調査を行い、382名を分析対象とした。男女の多母集団による同時分析を行なった結果、男性モデルでは「父親の片づけ要求」が「分類」と「整頓」への正の影響を示し、女性モデルでは「母親の積極的な片づけ態度」が「分類」への正の影響を示していたことから、片づけ行動には子どもの頃の同性の親が影響することが示唆された。男性では、子どもの頃に父親の直接的な関わりかけである「片づけ要求」が高かったという認識が、子ども自身の現在の片づけ行動（分類と整頓）を促しているということが示唆された。一方で、女性においては、母親自身が片づけのモデルとなる態度を示すことが、片づけ行動（分類）を促すことが示唆された。以上のことから、子どもの片づけ行動を促すためには、同性の親の関わりが重要であると考えられる。

キーワード：片づけ行動、両親の片づけ要求、両親の片づけ態度

### I. 問題と目的

近年、片づけはメディアで頻繁に取り上げられており、片づけに関するマニュアル本も数多く出版されている（小松，2009；やました，2010；近藤，2011）。たとえば、断捨離（やました，2010）という言葉は、2010年の流行語大賞にノミネートされたほど話題となった。

そもそも、片づけとは何か。明鏡国語辞典（第二版）では、片づけを「散らかっている場所をきれいに整える。また、散らかっている物やじゃまな物を取り除いて収まるべきところにきちんと納める。整理する」と記述されており（北原，2010，pp.333）、広辞苑（第六版）においても、「散乱したものを整える。整理。整頓。」と記載されている（新村，2008，pp.542）。また、片づけを英語に翻訳すると、整頓（tidy up・clearing up・fixing up など）、除去（putting away・clearing away など）、処理

（disposal）と置き換えられている（渡邊，2003）。これらの記述から、片づけは単一の行動を指し示すのではなく、散らかっている物を整頓することや、不要な物を処分するといった複数の行動によって構成されると考えられる。

海外において、整頓や処分を合わせた行動としての「片づけ」の研究はほとんど行なわれていないが、整頓と処分それぞれについての研究がされている。そこで、まず、海外の整頓に関する先行研究について述べる。19世紀ヨーロッパの工業化と都市化の時代に、整頓は新たな社会規範として位置づけられ（Cieraad, 1999）、上流階級を労働者階級から分離する価値の基準として用いられた（Laermans & Meulders, 1999）。さらに、価値があるものとして整頓を促す新しいビジネスや製品、ブランドの発展を兼ね合わせたマーケティングの実施が、整頓の社会規範を強化し、家庭における整頓の価値

基準をより高いものにした (Martens & Scott, 2005)。こうしたヨーロッパにおける時代的背景によって、整頓することは生活の中に根付いていった。また、人は多くの時間を過ごす生活環境や仕事環境を自身の好みに合うように整えることにより自分らしさを強く意識することができ (Gosling, Ko, Mannarelli & Morris, 2002)、環境を整頓する、あるいは、整頓しないことで、アイデンティティを表現している (Nippert-Eng, 1996; Kelly & Belk, 2005)。つまり、自分の周囲の環境を整えることは、その個人にとって自己の確立や安定のために重要であると考えられる。

一方で、処分についての海外の先行研究では、処分は人々を物事から分離することであり (Gregson, Metcalfe & Crewe, 2007)、獲得と消費に続く消費者行動段階の最終地点にある (Hanson, 1980; Jacoby, Berning & Dietvorst, 1977) と述べられている。所有物の処分には、対象をその所有者と分離する物理的プロセスと心理的プロセスの両方が含まれ (Roster, 2001)、Kleine, Kleine & Allen (1995) は、その品物のもつ意味が所有者の現在のアイデンティティと一致しない場合に処分が起こると述べている。この不一致は、消費者の自己イメージが変化したか、所持の意味が変わったために起こると考えられる (Belk, 1988; Lastovicka & Fernandez, 2005)。こうした記述から、処分には個人の心理的要因が影響を及ぼしていると考えられる。

日本においても、「片づけ」についての学術的研究は極めて少なく、生活スタイルについての家政学の分野における研究 (中村・今井, 2002; 2004; 中村, 2011) や子どもを対象とした保育の分野における研究 (松田, 2006; 砂上・秋田・増田・箕輪・安見, 2009; 永瀬・倉持, 2011; 富田・高橋, 2012) がほとんどである。たとえば、松田 (2006) は、片づけは子どもが身の回りを整理整頓するというだけでなく、ある活動に区切りをつけて次の活動に移行する場面であり、子どもにとって物や時間や人とのように関わっていくかを学ぶ機会として、そして快適な生活環境の基礎体験として、片づけの意義は重要であると指摘している。砂

上他 (2009) も、自分の気持ちをコントロールし、時間的な見通しを持つことを学ぶ機会であると述べている。また、富田・高橋 (2012) によると、片づけは幼児期に身につける必要がある生活習慣の一つであり、生活の中に必ずといっていいほど組み込まれていると述べられている。このように、片づけにはさまざまな心理要素が含まれており、片づけを身につけることは、子どもの発達にとって重要であると考えられる。しかし、こうした保育の分野における研究では、集団保育で遊びなどの活動の後に行われる片づけが扱われている。これは、活動で使用した物を元の場所、あるいは決められた場所へ片づける、つまり「整頓」する行動であると考えられる。こうした集団保育の場面で扱われる片づけには、「処分」が含まれていない。「整頓」と「処分」の両方を含む片づけは、自分の所有物の管理の中で行われることが多い。そのため、集団において共有物を扱う保育場面での片づけよりも、個人の所有物を扱う家庭内での片づけのほうが多くの要素を含んでいると考えられる。

小学生の子どもを持つ母親のしつけや教育に関する意識をベネッセ未来教育センターが調べた「第二回子育て生活基本調査報告書」(内外教育, 2003) によると、子育てをする上で気がかりなこと第一位は、各学年とも「後片付け・整理整頓」で、母親全体の59.4%があげた。このように、片づけは保育現場のみならず、家庭でも指導の困難な問題の一つである。北川・中田・宮川 (1995) は、片づけのしつけの本質は、子どもに自分の行動結果の責任を自覚させ、自由や権利の裏にある義務や責任に気づかせることであり、そこは、未来の予測や過去の反省といった時間的推理、他人への迷惑、約束や決まりを守ることの大切さといった相互関係の理解に関わる論理数学的知識が支配する、しつけ領域であると述べている。篠原・吉本 (1995) は、望ましい基本的生活習慣の確立に重要な役割を果たすのは家庭でのしつけであり、子どもに影響を与える基本的な要因は両親あるいは両親に代る者の子どもに対する養育態度であると述べている。また、松田 (2011) によると、基本的生活習慣の形成は、幼児が周りの人が何をどう

しているのだろうか」と見る「観察」、自分も真似をしてみようという「模倣」、そして、大人の言葉かけや、その言葉を幼児が自分でも言うことによる「意識化」（「言葉による意識化」）によって少しずつ子どもの中に定着していく。つまり、基本的な生活習慣の一つでもある片づけの形成には大人が片づけを示すことで、子どもが「観察」、「模倣」する機会を設けるとともに、大人から子どもへの言葉かけが必要であると考えられる。このように、片づけは子どもの心理的発達に関わることとして重要であるといえ、そのなかで、大人は子どもに片づけを身につけさせるためにさまざまな工夫をしながら支援を行なうことが求められている。そこで、本研究では、大学生の片づけ行動に両親がどのように影響を及ぼしているのか、子どもの頃の両親の片づけ要求と片づけ態度から検討する。基本的な生活習慣として片づけ行動が形成された後の大学生を対象とすることで、その形成に影響を及ぼしたと推測される両親の影響を明らかにすることができる。また、Gosling et al. (2002) は、大学生（青年期）は個人がアイデンティティ問題を模索している時期なので、自室において特に自己表現する傾向があると述べている。そして、共有空間よりも他者の影響や制限を受ける可能性が低く、自分の自由にできる個人の空間のほうが、より個人の特性が行動に現れると考えられることから、本研究では、自分の部屋（自分の部屋がない場合は、自分が自由にできるスペース）での片づけ行動に焦点を当てて検討する。

### 本研究の目的と仮説

本研究では、子どもの頃の「両親の片づけ要求」および「両親の片づけ態度」が、大学生の現在の「片づけ行動」にどのように影響を及ぼしているのかを検討することを目的とした。大学生の現在の「片づけ行動」に子どもの頃の「両親の片づけ要求」および「両親の片づけ態度」がどのように影響を及ぼしているのかを明らかにすることによって、片づけ行動を身につけさせるために重視すべき要因を示すことができると考えられる。これまでの先行研究の中でも、片づけに関する明確な定義はなされてい

ない。そこで、本研究では、片づけを「物を整頓する行動と、不要な物を減らす行動」と定義し、この定義で用いる場合の片づけを「片づけ行動」と呼ぶこととする。これまでの先行研究から導かれる仮説は以下のとおりである。

**仮説1** 子どもの頃に「両親の片づけ要求」が高かったと認識していることが、大学生の現在の「片づけ行動」を促進している。

**仮説2** 子どもの頃に「両親の片づけ態度」が積極的であったと認識していることが、大学生の現在の「片づけ行動」を促進している。

## II. 方法

### 1. 調査対象者

東京都および埼玉県内の大学に通う大学生691名に質問紙を配布し、回答に不備のあった者を除き、父親に関する項目・母親に関する項目いずれの回答にも欠損がなく、両親がそろっていた382名（平均年齢歳19.19, SD = 1.81）を分析対象とした。男性113名（平均年齢19.59歳, SD = 1.99）、女性269名（平均年齢19.03歳, SD = 1.71）であった。

### 2. 調査手続き

2013年7-8月に大学の講義開始前、または終了直前に調査を実施した<sup>1)</sup>。倫理的配慮として調査の匿名性・非強制性等を説明した。

### 3. 調査内容

**片づけ行動** 大学院生数名におこなった予備的なインタビュー調査から得られた内容と、先行研究（中村・今井, 2002; 2004）および片づけに関する一般書（小松, 2009; やました, 2010; 近藤, 2011）に記述されている内容を参考にしながら項目を作成した。その際、心理学を専門とする研究者1名と心理学を専攻とする大学院生数名で理論的な整合性と内容の妥当性に配慮して、項目を検討した。このようにして著者が作成した尺度項目について、大学生数名の協力を得て回答してもらい、曖昧な表現の削除、表現の修正を行った。以上の手続きを経て、最終的に調査に用いる片づけ行動（物を減らす行動・整頓する行動）に関する項目として、16項目を設定した。回答は「1: 全くあてはまら

ない」から「4：非常にあてはまる」までの4件法によって評定を求めた。

**片づけ満足度** 「現在、あなたの部屋（スペース）の片づけ状況にどの程度満足していますか」という教示により、100点満点で評定を求めた。

**子どもの頃の「両親の片づけ要求」** 子どもの頃の、「両親の片づけ要求」として、「身の回りを整理整頓するように言う」など、父親と母親それぞれ4項目ずつ全8項目を設定した。回答は「1：全く違った」から「4：非常にそうだった」に加え、親が不在だった場合を配慮して「9：該当なし」の5件法により評定を求めた。

**子どもの頃の「両親の片づけ態度」** 子どもの頃の「両親の片づけ態度」として、「身の回りの整理整頓ができています」など、父親と母親それぞれ4項目ずつ全8項目を設定した。回答は「1：全く違った」から「4：非常にそうだった」

に加え、親が不在だった場合を配慮して「9：該当なし」の5件法により評定を求めた。

子どもの頃の「両親の片づけ要求」および「両親の片づけ態度」はいずれも、「子どもの頃の状況を思い出して」という教示文により、大学生が子どもの頃を想起してどのように感じていたかを尋ねたものである。

### Ⅲ. 結果

#### 1. 片づけ行動の因子分析結果

まず、片づけ行動に関する16項目において、項目の平均値と標準偏差から評定値の分布を検討したところ、偏り（床効果）が見られた1項目（「友達からの手紙でも読んだら処分する」）を除外し、残りの15項目について、因子分析（主因子法・Promax回転）を行った。その結果、初期解における固有値の減衰状況および解釈可能性から3因子解が妥当であると判断した。さらに、該当因子に.35以上で負荷し、かつ複数の

Table 1 片づけ行動尺度の因子分析結果（主因子法・Promax回転）

	I	II	III
I. 分類因子 ( $\alpha = .76$ )			
ファイルやノートは用途ごとに使い分けている	.86	-.06	-.05
プリントや書類はファイルに入れて分類している	.81	-.02	.00
現像した写真はアルバムや写真立てに入れて保管している	.53	-.07	.05
PCのデータはファイルごとに整理ができています	.46	.18	-.01
雑誌や本などは大きさや種類を分類して収納している	.38	.05	.20
II. 処分因子 ( $\alpha = .74$ )			
人から貰った物でも不要なら処分する	-.03	.70	-.04
一度も使っていない物でも不要なら処分する	.11	.68	-.01
思い出の物でも不要なら処分する	-.06	.65	-.02
現時点で使う予定のない物は処分する	.04	.54	.08
まだ使える物でも、気に入らないものは処分する	-.06	.45	-.01
III. 整頓因子 ( $\alpha = .73$ )			
基本的に、家具以外の物を床に置かない	-.09	.05	.80
机の上には、必要な物しか置かない	.01	-.05	.72
使った物は、使用后すぐに元あった場所へ戻す	.14	-.02	.55
着ていた服を脱いだ時の形で放置している	-.06	.00	-.45
因子間相関	I	II	III
I	—	.18	.53
II		—	.28
III			—



因子に負荷していないことを基準として、十分な値を示さなかった1項目（「期限が過ぎた書類は随時処分している」）を除外し、再度因子分析（主因子法・Promax回転）を行った。その結果、14項目3因子構造の片づけ行動尺度が作成された（Table 1）。第I因子は「プリントや書類はファイルに入れて分類している」など、自分の部屋（自分のスペース）の物を分類する行動に関する項目に負荷量が高かったことから、「分類」因子と命名した。第II因子は「人から貰った物でも不要なら処分する」など、自分の部屋（自分のスペース）内にある不要な物を処分する行動に関する項目に負荷量が高かったことから、「処分」因子と命名した。第3因子は「基本的に、家具以外の物を床に置かない」など、自分の部屋（自分のスペース）内を整った状態に保つ項目に負荷量が高かったことから、「整頓」因子と命名した。それぞれの $\alpha$ 係数は、「分類」.76、「処分」.74、「整頓」.73であり、内的整合性の観点から信頼性が示された。そこで合算平均得点を求め、それぞれ「分類」得点、「処分」得点、「整頓」得点とした。

## 2. 子どもの頃の「両親の片づけ要求」の因子分析結果

子どもの頃の「両親の片づけ要求」8項目について、項目の平均値と標準偏差から評定値の

分布を検討したところ、偏りはみられなかった。そこで、子どもの頃の「両親の片づけ要求」8項目について、因子分析（主因子法・Promax回転）を行なった。その結果、初期解における固有値の減衰状況および解釈可能性から、2因子解が妥当であると判断した。さらに、該当因子に.35以上で負荷し、かつ複数の因子に負荷していないことを基準として、8項目2因子構造の片づけに関する「両親の片づけ要求」尺度が作成された（Table 2）。第I因子は、父親の「身の回りを整理整頓するように言う」など、父親が子どもの片づけ行動を促すような項目に負荷量が高かったため、「父親の片づけ要求」因子と命名した。第II因子は母親の「身の回りを整理整頓するように言う」など、母親が子どもの片づけ行動を促すような項目に負荷量が高かったため、「母親の片づけ要求」因子と命名した。それぞれの $\alpha$ 係数は、「父親の片づけ要求」.90、「母親の片づけ要求」.92であり、内的整合性の観点から信頼性が示された。そこで合算平均得点を求め、それぞれ「父親の片づけ要求」得点、「母親の片づけ要求」得点とした。

## 3. 子どもの頃の「両親の片づけ態度」の因子分析結果

子どもの頃の「両親の片づけ態度」8項目について、項目の平均値と標準偏差から評定値の

Table 2 両親の片づけ要求の因子分析結果（主因子法・Promax回転）

	I	II
I. 父親の片づけ要求 ( $\alpha = .90$ )		
物を出しっぱなしにしないように言う	.90	-.01
身の回りを整理整頓するように言う	.89	-.01
いらぬものは捨てるように言う	.78	-.03
自分の物は自分で片づけるように言う	.77	.07
II. 母親の片づけ要求 ( $\alpha = .92$ )		
物を出しっぱなしにしないように言う	-.06	.87
身の回りを整理整頓するように言う	-.03	.85
自分の物は自分で片づけるように言う	.07	.69
いらぬものは捨てるように言う	.05	.68
因子間相関	I	II
	I	.12
	II	—

分布を検討したところ、偏りはみられなかった。そこで、子どもの頃の「両親の片づけ態度」8項目について、因子分析（主因子法・Promax回転）を行なった。その結果、初期解における固有値の減衰状況および解釈可能性から、2因子解が妥当であると判断した。さらに、該当因子に.35以上で負荷し、かつ複数の因子に負荷していないことを基準として、8項目2因子構造の子どもの頃の「両親の片づけ態度」尺度が作成された（Table 3）。第Ⅰ因子は、母親の「身の回りを整理整頓できている」など、母親自身の片づけ行動や態度に関する項目に負荷量が高かったため、「母親の積極的な片づけ態度」因子と命名した。第Ⅱ因子は父親の「身の回りが整理整頓できている」など、父親自身の片づけ行動や態度に関する項目に負荷量が高かったため、「父親の積極的な片づけ態度」因子と命名した。それぞれの $\alpha$ 係数は、「母親の積極的な片づけ態度」.86、「父親の積極的な片づけ態度」.89であり、内的整合性の観点から信頼性が示された。そこで合算平均得点を求め、それぞれ「母親の積極的な片づけ態度」得点、「父親の積極的な片づけ態度」得点とした。

#### 4. 片づけ行動と各変数との関連

子どもの頃の「両親の片づけ要求」、および「両親の片づけ態度」と大学生の「片づけ行動」

との関連を検討するために、各下位尺度の相関係数を男女別に算出した。その結果、男性においては、「父親の片づけ要求」と「父親の積極的な片づけ態度」が、いずれも「分類」および「整頓」との有意な正の相関を示した（それぞれ、「分類」は、 $r = .31, p < .01$ ;  $r = .24, p < .05$ ；「整頓」は、 $r = .24, p < .05$ ;  $r = .25, p < .01$ ）。一方、女性においては、「母親の積極的な片づけ態度」が、「分類」および「整頓」と有意な正の相関を示された（それぞれ、 $r = .15$ ;  $r = .14$ , いずれも $p < .05$ ）。つまり、「父親の片づけ要求」得点と「父親の積極的な片づけ態度」得点が高い男性ほど、「分類」および「整頓」得点が高い傾向が示された。また、「母親の積極的な片づけ態度」得点が高い女性ほど「分類」および「整頓」得点が高い傾向が示された。

#### 5. 子どもの頃の「両親の片づけ要求」および「両親の片づけ態度」が、大学生の「片づけ行動」に及ぼす影響

子どもの頃の「両親の片づけ要求」と「両親の片づけ態度」が、大学生の「片づけ行動」および「片づけ満足度」に及ぼす影響のモデルを検討するために、子どもの頃の「両親の片づけ要求」の各下位尺度と「両親の片づけ態度」の各下位尺度が、大学生の「片づけ行動」の各下位尺度に影響し、さらに片づけ満足度にも影響

Table 3 両親の片づけ態度の因子分析結果（主因子法・Promax回転）

	I	II
I. 母親の積極的な片づけ態度 ( $\alpha = .86$ )		
片づけが得意だ	.93	-.02
身の回りが整理整頓できている	.92	.03
きれい好きだ	.80	-.02
物を溜め込まずに捨てる	.79	.01
II. 父親の積極的な片づけ態度 ( $\alpha = .89$ )		
身の回りが整理整頓できている	.07	.90
片づけが得意だ	-.03	.88
きれい好きだ	-.10	.79
物を溜め込まずに捨てる	.07	.70
因子間相関	I	II
	I	.01
	II	—

を及ぼすというモデルを仮定した。また、片づけ行動の下位尺度については、まず不要な物を「処分」して、その後に残った物を「分類」し、整った状態を保つ「整頓」を行うのではないかと考え、「処分」から「分類」、「整頓」へ、そして「分類」から「整頓」へとパスが進むというモデルを仮定した。男女の多母集団による同時

分析を行ない、それぞれ、有意水準5%で偏回帰係数が有意でなかったパスを削除し、適合度が最も良くなる時点まで分析を繰り返した (Figure 1, 2)。このモデルの適合指数は、GFI = .98, AGFI = .95, RMSEA = .01であり、モデルによるデータの説明率には問題がないと判断した。

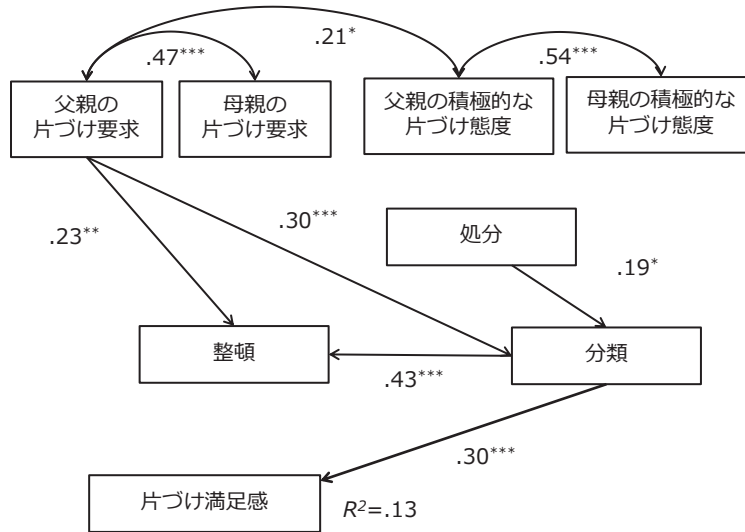


Figure 1 男性：「両親のかたづけ要求」と「両親の片づけ態度」が、大学生の「片づけ行動」および「片づけ満足度」へ及ぼす影響モデル

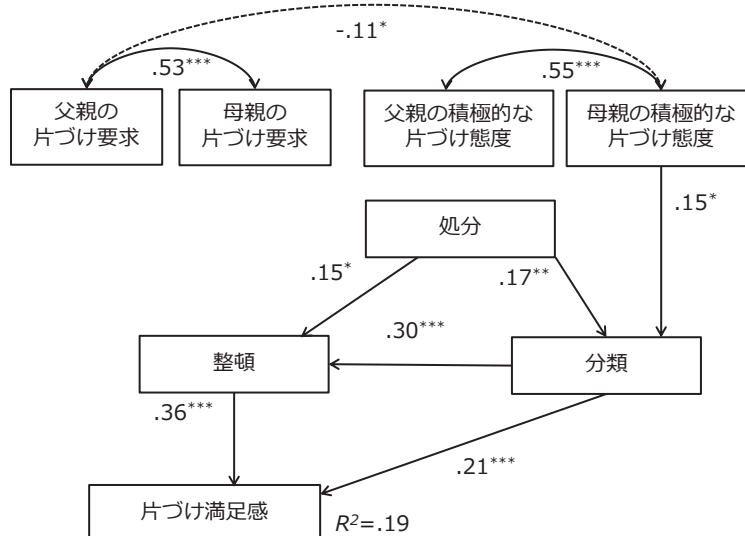


Figure 2 女性：「両親の片づけ要求」と「両親の片づけ態度」が、大学生の「片づけ行動」および「片づけ満足度」へ及ぼす影響モデル

男性モデルでは、「父親の片づけ要求」から、「分類」へ正のパス (.30,  $p < .001$ ) を示し、さらに、「分類」から「片づけ満足度」へ正のパス (.30,  $p < .001$ ) を示した。また、「父親の片づけ要求」から「整頓」へも正のパス (.23,  $p < .01$ ) を示した。一方、女性モデルでは、「母親の積極的な片づけ態度」から「分類」へ正のパス (.15,  $p < .05$ ) を示し、「分類」から直接「片づけ満足度」への正のパス (.21,  $p < .001$ ) と、「分類」から「整頓」への正のパス (.30,  $p < .001$ ) を介して、「片づけ満足度」への正のパス (.36,  $p < .001$ ) を示した。男性と女性を比較すると、男性モデルでは「父親の片づけ要求」が「分類」と「整頓」への正の影響を示し、女性モデルでは「母親の積極的な片づけ態度」が「分類」への正の影響を示していたことから、片づけ行動には子どもの頃の同性の親が影響することが示された。

#### IV. 考察

本研究では、大学生の「片づけ行動」に、子どもの頃の「両親の片づけ要求」および「両親の片づけ態度」がどのように影響を及ぼしているのかを検討することを目的とした。

片づけ行動尺度の因子分析の結果、整頓因子と処分因子だけでなく、分類因子も含めた3因子が抽出された。明鏡国語辞典（第二版）（2010）の記述と照らし合わせると、整頓因子は、「散らかっている場所をきれいに整える」という記述と対応し、処分因子は「散らかっている物やじゃまな物を取り除いて」という記述と対応し、そして分類因子は「収まるべきところにきちんと納める」という記述と対応すると考えられる。そのことから、片づけ行動は、整頓、処分、分類の3つから構成されると考えることは妥当であるといえる。また、大学生が評価した、子どもの頃の「両親の片づけ要求」の因子分析の結果、片づけ行動をするように促す養育態度として「父親の片づけ要求」と「母親の片づけ要求」の2因子が抽出された。そして、大学生が評価した、子どもの頃の「親の片づけ態度」の因子分析の結果、「母親の積極的な片づけ態度」と「父親の積極的な片づけ態度」の2因子が抽出された。そこで、「片づけ行動」、「両親

の片づけ要求」、「両親の片づけ態度」の各下位尺度得点を作成して、子どもの頃の「両親の片づけ要求」および「両親の片づけ態度」が大学生の「片づけ行動」に及ぼす影響を検討した。

子どもの頃の「両親の片づけ要求」と「両親の片づけ態度」が、子どもの「片づけ行動」に影響し、さらに片づけ満足度にも影響を及ぼすというモデルを仮定して、男女別に検討した結果、男性と女性を比較すると、男性モデルでは「父親の片づけ要求」が、現在の片づけ行動である「分類」と「整頓」への正の影響を示し、女性モデルでは「母親の積極的な片づけ態度」が現在の片づけ行動である「分類」への正の影響を示していたことから、片づけ行動には子どもの頃の同性の親が影響することが示唆された。また、男女のモデルに認められた差異から、男性の場合、父親の直接的な関わりかけである片づけ行動を促すような「片づけ要求」が有効な影響力を持っているが、女性の場合、子どもの頃の直接的に片づけ行動を促すような「片づけ要求」は、現在の片づけ行動に影響を及ぼさず、むしろ、母親自身が片づけのモデルとなる態度を示すことが、有効な影響力を持っていると考えられる。以上のことから、篠原他（1995）が述べていたように、片づけ行動においても親の子どもに対する関わりが重要であることが示された。そして、松田（2011）が述べていた、子どもが「観察」、「模倣」する機会を設けるとともに、大人から子どもへの言葉かけをすることは、片づけ行動の形成においても重要であることが示唆された。本研究で得られた結果は、仮説1および仮説2を部分的に支持するものであり、子どもの頃に片づけに関する「両親の片づけ要求」が高かったと認識していることが大学生の現在の「片づけ行動」を促進しているという仮説1は男性において支持され、子どもの頃に「両親の片づけ態度」が積極的であったと認識していることが、大学生の現在の「片づけ行動」を促進しているという仮説2は女性において支持された。子どもの頃に両親をどのように認識しているかということが、現在の大学生の片づけ行動に影響を及ぼすことと、男性と女性では影響の仕方が異なることが示唆され、子どもの片づけ行動を促すためには、同性の親の関



わりを重視することが必要であることが明らかになったと考えられる。

本研究では、大学生が評価した子どもの頃の「両親の片づけ要求」および「両親の片づけ態度」が、現在の大学生の「片づけ行動」に及ぼす影響について検討を行った。今後は、父親・母親が評価する自身の片づけに関する養育態度や、父親・母親自身の片づけ行動についても検討していく必要がある。それによって子ども側と親側の両側面から片づけ行動の発達を検討することが可能になると考えられる。

### 【引用文献】

- Belk, R. W. (1988). Possessions and the extended self. *Journal of Consumer Research*, **15**, 139-168.
- Cieraad, I. (1999). At Home: An Anthropology of Domestic Space. In I. Cieraad (Ed.) Syracuse, NY: Syracuse University Press, 1-12.
- Gosling, D. S., Ko, S. J., Mannarelli, T., & Morris, E. M. (2002). A Room With a Cue: Personality Judgments Based on Offices and Bedrooms. *Journal of Personality and Social Psychology*, **82**, 379-398.
- Gregson, N., Metcalfe, A., & Crewe, L. (2007). Moving Things Along: The Conduits and Practices of Divestment in Consumption. *Transactions of the Institute of British Geographers*, **32**, 187-200.
- Hanson, J. W. (1980). A Proposed Paradigm for Consumer Product Disposition Processes. *Journal of Consumer Affairs*, **14**, 49-67.
- Jacoby, J., Berning, C. K., & Dietvorst, T. F. (1977). What About Disposition? *Journal of Marketing*, **41**, 22-8.
- Kelly, T., & Belk, W. R. (2005). Extended Self and Possessions in the Workplace. *Journal of Consumer Research*, **32**, 297-310.
- Kleine, S. S., Kleine, R. E., & Allen, C. T. (1995). How is a possession "me" or "not me"? :Characterizing types and an antecedent of material possession attachment. *Journal of Consumer Research*, **22**, 327-343.
- 北川年昭・中田栄・宮川洋子(1995). 投影法によるしつけ方法の分類の試み (2)一片づけ場面の回答の分析— 日本保育学会大会研究論文集, **48**, 684-685.
- 北原保雄(編)(2010). 明鏡国語辞典 第二版 (pp.333) 大修館書店
- 小松易(2009). たった1分で人生が変わる片づけの習慣 中経出版
- 近藤麻理恵(2011). 人生がときめく片づけの魔法 サンマーク出版
- Laermans, R., & Carine, M. (1999). "The Domestication of Laundering," in *At Home: An Anthropology of Domestic Space*, ed. Irene Cieraad, Syracuse, NY: Syracuse University Press, 118-129.
- Lastovicka, J. L., & Fernandez, K. V. (2005). Three Paths to Disposition: The Movement of Meaningful Possessions to Strangers. *Journal of Consumer Research*, **31**, 813-23.
- 松田純子(2006). 子どもの生活と保育—「かたづけ」に関する一考察— 実践女子大学 生活科学部紀要, **43**, 61-71.
- 松田純子(2011). 幼児の生活をつくる —幼児の「しつけ」と保育者の役割— 実践女子大学 生活科学部紀要, **48**, 95-105.
- Martens, L., & Scott, S. (2005). The Unbearable Lightness of Cleaning : Representations of Domestic Practice and Products in *Good Housekeeping Magazine* (UK): 1951-2001.
- 永瀬祐美子・倉持清美(2011). 集団保育における遊びと生活習慣行動の関連—3歳児クラスの片付け場面から— 保育学研究, **49**, 189-199.
- 内外教育(2003). 子育ての気がかり1位は後片付け—ベネッセ未来教育センターが母親の意識調査— 内外教育, **5387**, 6-7.
- 中村久美・今井範子(2002). リビングダイニングの住生活における収納の問題 日本家政学会, **53**, 43-56.
- 中村久美・今井範子(2004). 住宅における収納空間としての屋外物置の利用とその評価 日本家政学会, **55**, 561-572.
- 中村久美(2011). 生活管理の視点からみた収納様式に関する研究—モノの出納と管理の状況— 日本家政学会誌, **62**, 277-288.
- Nippert-Eng, C. (1996). Calendars and Keys: The Classification of 'Home' and 'Work'. *Sociological Forum*, **11**, 563-582.
- Roster, C. A. (2001). Letting Go: The Process and Meaning of Dispossession in the Lives of Consumers. *Advances in Consumer Research*, **28**, 425-430.
- 篠原弘章・吉本逸子(1995). 両親の養育態度と子どもの基本的な生活習慣 熊本大学教育学部紀要, **44**, 239-257.

新村出(編)(2008). 広辞苑 第六版(pp.542) 岩波書店  
砂上史子・秋田喜代美・増田時枝・箕輪潤子・安見克夫(2009). 保育者の語りに見る実践知—「片付け場面」の映像に対する語りの内容分析— 保育学研究, **47**, 70-81.  
富田久恵・高橋紗穂(2012). 幼場園における片付け場面での年齢差を考慮した援助内容—保育者の実践知と教育課程との関連からの検討— 千葉大学教育学部研究紀要, **60**, 31-38.  
渡邊敏郎(編)(2003). 研究社 新和英大辞典 第五版 研究社

やましたひでこ(2010). ようこそ断捨離へ—モノ・ヒト・コト, そして心の片づけ術— 宝島社

#### 【脚注】

1) 本研究は, 2013年度修士論文のデータを用い, 再分析・再構成したものである。

—2017年9.22.受稿, 2017年11.15.受理—

## The influence of the parents on the current tidy up behavior of university students

— Consideration from parent's request to tidy up and tidy up attitudes —

Saori Motoi                      Mejiro University, Graduate School of Psychology  
Atsuko Onodera                Mejiro University, Faculty of Human Sciences

Mejiro Journal of Psychology, 2018 vol.14

### **【Abstract】**

In this study, we conducted a questionnaire survey, and analysis with 382 university students to examine how “parent's requests to tidy up” and “parent's tidy up attitudes” affect tidy up behavior. As a result of multiple group analysis, in males, it was confirmed that “father's requests to tidy up” showed a positive influence on “classification” and “orderliness”. In females model, “mother's aggressive tidy up attitude” showed a positive influence on “classification”. From this result, it was suggested that parents with same sex as a child influence on child's tidy up behavior. In male, the higher recognition that there were many “father's requests to tidy up”, which are direct involvement in themselves are doing tidy up behavior. Whereas, it seems that in female, it was suggested that the mothers' own attitudes towards tidy up the model themselves prompts child's tidy up behaviors (classification). From the above, it was suggested that parent's relationship of the same sex as a child is important in order to promote children to tidy up behavior.

**keywords** : tidy up behavior, parent's requests to tidy up, parent's tidy up attitudes